

神経内科医、難病医療に従事する医師およびコメディカルの皆様へ

## 「平成 25 年度難病緩和ケア研修研究会」開催のご案内

神経難病患者は発症したときから身体的、精神的、社会的、スピリチュアルに苦痛を伴うことより神経難病の診療そのものが緩和ケアといえます。そのため、単に治療の技術的側面のみならず、緩和ケアを意識して治療にあたるべきであります。その教育の機会や手段は限られており、教育方略についても研究が必要です。

今回、教育方法のひとつとして緩和ケア研修研究会を計画しました。本研修研究会を通して難病緩和ケアの教育の方法論について研究、検証することを目的としています。

緩和ケアは倫理的側面も強いので知識偏重の座学では体得するのは難しいと思われます。そのため、今回の研修会は 2 日にわたって中心的課題それぞれにスモールグループディスカッション (SGD) やロールプレイなどを組み合わせて参加者がお互いに研鑽しあう内容とし、そのうえで知識や考え方を補充するためのレクチャーを行う内容としています。また、これまでの経験から悩んだ症例を参加者に提示してもらい検討するなど経験豊富な講師陣と直接触れ合える場を設定しアドバイスや討論を予定しています。参加者の皆様に教育プログラムを体験いただき、フィードバックをしていただくことで研究にご協力いただき、さらにより教育プログラムの開発を目指したいと思っております。

**日 時** 平成 25 年 10 月 5 日 (土) 11 : 00 ~ 19 : 00 (受付 10 : 30 ~)  
19 : 00 ~ 20 : 30 情報交換会 (会費制)  
平成 25 年 10 月 6 日 (日) 9 : 00 ~ 16 : 00

※情報交換会は原則ご参加ください。アルコールはお出しできませんが、会食しながらタスクフォースや参加者の皆様とお話する良い機会になると思います。

**場 所** FUKURACIA 東京ステーション 5 階 会議室 K  
東京都千代田区大手町 2-6-1 朝日生命大手町ビル (TEL 03-3533-7775)  
(東京駅・大手町駅 B6 出口直結、東京駅日本橋口徒歩 1 分)

**中心的課題**

1. 診断告知 ALS を例として (患者医師関係について・難病の告知について)
2. 嚥下障害への医療介入 胃瘻について (自己決定について)
3. 呼吸障害への医療介入 人工呼吸器について (事前指示について・差し控えと中止について)
4. 終末期への対処 (モルヒネ等の使い方・鎮静について)

### 講師・ファシリテーター

板井孝彦 (宮崎大学医学部臨床倫理学)  
稲葉 一人 (中京大学法科大学院法務研究科生命倫理学)  
植竹 日奈 (まつもと医療センター中信松本病院相談支援センター)  
荻野美恵子 (北里大学医学部神経内科学)  
成田 有吾 (三重大学医学部看護学科)  
難波 玲子 (神経内科クリニック難波)  
他

※当日変更の可能性がございます

- 対 象** 神経内科医、難病医療に従事する医師およびコメディカルの皆様（定員 40 名）  
（2 日間ともご参加いただける方を優先させていただきます。）
- 参 加 費** 無料  
※ ただし情報交換会については会費制とし 3,000 円を徴収させていただきます。  
恐れ入りますが、当日受付にてお支払くださいますようお願い致します。
- 申 込 方 法** 申込書にご記入のうえ、FAX または E-mail にてお申込ください。定員になり次第締め切らせていただきます。

以上

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患克服研究事業）  
「希少性難治性疾患患者に関する医療の向上及び患者支援のあり方に関する研究」班  
研究代表者 西 澤 正 豊

お問合せ先： 難病緩和ケア研修研究会事務局  
荻野美恵子  
〒252-0380 神奈川県相模原市南区麻溝台 2-1-1  
北里大学医学部神経内科学  
TEL 042-748-9111（内線 2540）  
TEL&FAX 042-746-8082（直通）  
E-mail kanwakea@kitasato-u.ac.jp

## アクセス

FUKURACIA 東京ステーション（朝日生命大手町ビル内）  
（東京駅・大手町駅 B6 出口直結、東京駅日本橋口徒歩 1 分）

